現代政策学部　渡部峻太

私は 2023 年度水田三喜男記念奨学生として、ハンガリー研修へ参加しました。5 か月間の事前研修、2 週間という現地研修期間の中で普段できないような経験を沢山させていただきました。今までの生活とは違う文化・考え方に出会う中で、過去の自分がいかに小さいかを知ると同時に、広い視野で物事を見ることができるようになりました。そう感じるようになった根拠をいくつか紹介します。

まず、一番影響を受けたのはコミュニケーションです。私は元々、英語に苦手意識がありました。Reading と Listening は何とか出来ていたのですが、Speaking が全くと言っていいほどできませんでした。もちろんアウトプットの量が不足しているというのは前提ですが、型に落とし込むなど表現することが苦手でした。日本語特有の繊細さや察すということを表現ができないのもその原因の 1 つです。そのせいもあって初めは自分から話しかけるということを控えていたように感じます。しかし、ブダペスト商科大学の学生と話していくうちに、非言語的コミュニケーションを駆使しながら、自分の持っているもので相手に考えを伝えることができると知り、型にとらわれなくてもいいと思うようになりました。言葉が通じて会話がつながった時、本当に嬉しかったです。英語に対するとっつきにくさが減りました。海外で英語の成功体験を積めたことがこれからの財産になると考えています。

次にハンガリーの街並みです。日本の都市計画は、建築の自由の原則により、　好きなように土地利用してよいです。都市計画よりも個人の所有権を優先しているため、土地の分割がすすんでいます。日本の建物は活動に合った建物であり、学校や病院など外観で活動が予想可能になっています。活動に合わせて新築しており、雑然とした街並みになっています。逆に、欧米の都市計画は建築不自由であり、都市計画で定められたもの以外は原則禁止となっています。個人の所有権より、都市計画を優先しています。欧米の建物は建物と活動は無関係であり、内部だけを改造しています。そのため建物は周囲と調和しており、統一感のある街並みになっています。ハンガリーの街並みは西洋建築であり、どこを見てもきれいな風景が広がっていました。日本とは真逆の街並みで過ごしてみて、迷ったりと生活のしにくさを感じた半面、冒険感がありワクワクしました。

↑世界一きれいなマクドナルド

たばこをどこでも吸えることに驚きました。

三つ目は食事についてです。ハンガリーの主食は主にパンやパスタであり、サンドウィッチやハンバーガーなどをたくさん食べました。特に印象に残っている食事は、学校帰りに食べたラーンゴシュです。ラーンゴシュは日本の二郎系ラーメンとはレベルが違うくらい重かったです。二郎系ラーメンは余裕とは言わずとも完食できますが、ラーンゴシュは半分くらい残してしまいました。このラーンゴシュを現地学生はぺろりと食べていて驚愕しました。

ラーンゴシュ➡

この研修を通してこれまで述べたような日本では見ることの出来ないものや考え方の違いについて深く学ぶことができました。成果発表会についても、意見の違いによるぶつかり合いはありましたが、それを乗り越えて最高の発表ができたと感じています。今回の研修を今後の就職活動をはじめ、社会に出てからの生活に活かしていきたいと思います。最後に、水田三喜男記念奨学生として本研修に参加させていただき貴重な経験をし、様々な知識を得られたことを心から感謝しております。また、本研修で支えてくださったすべての方々に感謝申し上げます。